

「去年は明子ちゃんが先に歩いてしまったから、しまったと思つたよ」と本当にうれしくてたまらないという顔をなさつた。それでも「明ちゃんはよそにきてるんだからね」と私をなぐさめて下さるおつもりのような言葉を仰言つた。帰途そのことを考へては思わずひとり笑いが浮んできて仕方がなかつた。「先生のからをぬいだよいおじいちゃん」と。

(お茶の水女子大附属幼稚園教諭)

こそ異え四月二十一日、倉橋先生はやっぱり日本のフレーベル先生でした。

## 倉橋先生を偲びて

山 口 菊 代

環境が商店街に近い為早朝からのラジオはとかく遠慮勝になるのに四月二十一日は午前六時心にもなくスイッチを入れた瞬間、倉橋先生の御逝去が報ぜられました。虫の報らせといふのでしあが先生の御靈が西の端の長崎まで飛んでこられたような気持に打たれ幾度か倉橋先生倉橋先生とお呼びはじめました。フレーベル先生の亡くなられた四月二十一日、年

昭和六年一月から幼児の教育の巻頭辞が先生によつて書かれました。保育の真心がさわやかな文筆で示されました。又しても私は心ひかれそれを写し始めたのです。幼稚園生活が樂しければそれを自讀し苦しければ音讀し一ヵ月に一度はくり返しくり返し読みふけりました。

女子師範卒業の小学校教育を見つめただけの然かも二学期間の経験で幼稚園に飛びこんだ私は、自分の貧しさの為幼稚園教育のよさを味わえなくて五年間苦しみに苦しみました。先輩の先生が一度東京に出て「倉橋先生のお話をきいてごらん」とのおすすめに不精不精上京致しました。昭和三年の夏の講習。今だに忘れられない「積極的保育作用」と題したお講義、私は穴があつたら入りたい思いでこれを伺いました。あの小さいと思われる一事一事が保育上それ程に重大であったか、子どもを見直し、幼稚園を見直し、自分を見直し、実際に自分の行くべき道に明るさと力強さをおみやげにして帰国致しました。そして私は一年交互に上京して、先生のお声にふれるなどを楽しみとしました。先生のすばらしい教育観に尊かれて私の幼稚園への道は開かれました。今私はペンを走らせてあの当時の具体例を思い浮かべつつ感謝の涙に浸つております。

七ヵ年私はよろこびと躍動で写しつづけました。昭和十一

倉橋惣三先生安らかにお眠り下さいませ。

年五月上京の時持参して表紙に「子ども達の中にいて」と書

奥津城につづく道辺の落椿

(長崎市立長崎幼稚園長)

いて頂きました。丁度皇后陛下に御進講直後のモーニングの礼装の先生は「よく書いたね」とおっしゃってほほ笑されました。終りは昭和十四年八月三度目の御来崎の折上野屋の二

階で先生より私の写本の裏に「長崎に来て親しくお会いして」と書いて頂きました。人間教育、裁く勿れ、温、驚く心

まめやかさ、先生方よ睡眠を充分とて置いて下さい、涼、

動、自分、秋晴、ひなた、感情清算等……私には何にもかえられない力強い魂の記念品でありました。この写書は私が保育研究の時いつもくりとして必要なものであり、ほんとう

日の夜、私はお通夜の心でお経代りにこの写本を声高らかに読みふけり御冥福を祈りその教育観とお人柄を敬慕致しました。

昭和二十七年一月、原爆後の仮園舎に先生お作の長崎幼稚園の歌が届けられましたが二十八年三月新園舎落成の時には

大勢のお客様の前で子ども達が晴れやかに合唱しました。今

も毎週月曜の朝の集りで子ども達に唱われる園歌、先生のお

徳は消えることなくいつまでもいつまでも子ども達に親しま

れ希望の光となつて長崎市内に、日本の海山に否世界の果ま

でも高く低く響くことと信じます。

## 倉橋先生を 偲びまつる

山崎ときの

たおれし〇〇さんだきおこし  
耳に口あてこととえば  
にっこり笑って目になみだ

自発活動も口のうちトコトット——

これは私が大正五年四月初めて神戸幼稚園の保母に就職した時分に今はなき望月先生から折にふれてきかして頂いたラッパ節の替歌であります。この自発活動という言葉がかく歌となり又保育の合詞となつて保母の心をゆり動かし保育の重要な指針となつたかと申しますと、大正の初年頃神戸市で開